

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

事業所名: グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	近所に薬局・商店があり利用者や職員が買物に出かけるようにしている。また、困ったとき隣の方に助けて頂いたこともある。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地区運動会・夏祭り・餅つき会・避難訓練への参加 自治会への加入

事業所名: グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で地域との共有に努め、協力できることをしていく様取り組んでいる。	○	H20年4月、めだか感謝祭を開催し、地域の皆様に知っていただく機会をもうけた。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を元に少しずつ改善するよう努力している。	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議におき家族や地域の方々から出された意見を職員会議等において報告し改善策を考えている。	○	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	各書類提出時などのおり、市町村担当者と話す機会を持つ様になっている。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の中には制度利用をしている方もいらっしゃることもあり制度を理解していない職員には説明をしている。	○	地域包括支援センター主催の勉強会に参加している。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員内部研修にて高齢者虐待と身体拘束について学ぶ機会を設けた。又、日々の介護の中で指導している。	○	

事業所名：グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時説明の時間をとっている。	○	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員や家族に日々の生活の中で不満や要望は言っている。出来る事は反映出来るよう努力している。	○	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の生活については、面会時に話しをしたり又、遠方の家族には電話にて報告するようにしている。又、緊急時については電話連絡している。	○	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に意見や不満等言っていただき、反映するよう努力している。	○	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や勤務の中で聞く機会を設け反映できる様努力している。	○	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の希望を考えながら、必要な時間に職員を配置できるように努力しているが課題も残っている。	○	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	他部署の職員と日頃から交流を持ち、顔馴染みの関係作りをしている。	○	

事業所名：グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を行なっている。また、研修や講座の情報を職員に提示し参加を促している。	○	2ヶ月に1度、内部研修を開催している。状況に応じ同法人内のグループホームに研修に行っている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センター主催の交流会へ参加したり、他のグループホームへ研修交流させていただく機会をもうけている。	○	他事業所へ交流した様子を報告してもらい取り入れていけそうなものは取り入れていく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者から状況報告を聞く機会を設けている	○	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者や職員から状況報告を聞く機会を設けたりしている。	○	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談後、本人と面談するなど話しを聴く機会をもうけ受け止めるよう努力している。	○	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と面談のほか、家族と連絡をとり不安や希望を聴く努力をしている。	○	

事業所名：グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者が困らないよう、法人内サービスや他サービスへの連携や支援を行なっている。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学やお試し利用などの機会をもうける。	○	お試し利用により入所に至った方もいらっしゃる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来る事はしていただく、その方の得意としてきた事はしていただく。	○	編み物が得意の方から、職員や他利用者さんが教えていただく、料理を一緒におこないながら職員が教えてもらう
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に一緒に過ごしながらか介助もお願いしたり、生活への不安や不満を聞いてもらえるようしている。	○	家族と外出したり、外食したり、外泊をしたりされている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用時に家族と本人の関係の状況把握したり、本人の状況をその都度報告するようにし、良い関係が築けるよう支援している。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	日々の生活の中で馴染みの場所や土地の話をするなどしている。また、知人の面会により関係が途切れないう支援する。	○	家が近くの方は散歩がてら行ったり、車で家の近くまでドライブに行くなどしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係に目をむけ、職員が関係作りに関わりを持つよう努力する。	○	必要に応じ居室等にて話すようになっている。

事業所名：グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	出来る限り関係作りに努める。	○	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で本人の希望などを聴くよう努めている。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に聞き取りした内容をシートにし職員が把握できるよう努めている。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	新しく利用された方や状況に応じ生活リズムパターンを活用している。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人の希望を元に話し合い介護計画への糧にしている	○	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員会議にて話し合い介護計画へ反映している。	○	

事業所名：グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の必要性を職員が把握し記録に残すようにしている。又、計画の見直しの情報の一部とする。	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の他サービスと連携をとり支援している。	○	大きな状況変化の時ばかりではなく、日々の中での些細な状況時にも他部署へ行き気分転換をしてくることもある。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員の方を通じ協力をお願いしていく。	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスとの連携や関係作りに努める。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	いつでも相談できる関係作りに努めている。	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と話し合いかかりつけ医を決め、受診時には状況報告を伝えたり、必要に応じては、主治医と直接面談している。	○	

事業所名：グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者のかかりつけ医と受診時等に相談し関係作りに努める。	○	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同施設内の看護師に日頃から相談し又関わりを持ってもらい対応等を相談・支援してもらっている。	○	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	法人のクリニックとの連携はもとより、利用者が入院した病院関係者へ情報提供や相談に努めている。	○	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について、家族の希望を聞き取り、状況に応じ意思確認をしながら終末期の支援をしていく。	○	家族と都度確認や状況把握をし終末期の支援をしている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合においても、その方らしく過ごせる支援をしていく中で、できる範囲を見極める支援に取り組んでいく努力をしている。	○	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や本人の希望をくみ取り対応するよう努める。	○	

事業所名：グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけについて職員にその都度注意やお願いとして指導している。	○
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自身から訴えることのない方については、選択できる工夫をしている。	○
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で動いてしまう事がないとはいえないが、出来るだけその方のペースに添う支援に努めている。	○ 民家を改装したホームであり、階段の登り降りに危ない場面があるときなど待っていただくことがある。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	女性利用者には、入居時今まで使っていた身だしなみ用品を持ってきていただき、外出時化粧やおしゃれをしていただく。	○ 定期的に美容師に来てもらったり、近所の理容店へ行っている。家族が馴染みの美容室に連れて行ってくれたり、ホーム内で髪染めをしてくれたりしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の中で一緒に食事作りをしたり、片付けをしている。	○ 手作りコロッケ・ぎょうざ作りをし、クリスマス会や敬老会の食事に組み入れ家族に振る舞う。ほうとう作りを皆で夕食にした。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買物の時、自身の好きなおやつを買ってきて楽しむこともある	○ 手作りおやつで楽しむことにも努めている。

事業所名：グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し出来る限り自立した排泄に努めている。	○	日中はリハビリパンツの使用を減らし、自立の無理な方に対しては、声かけによりトイレに誘うようにしている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるよう準備しておき、声かけや本人の希望やタイミングで入浴をしている。また、入浴時、職員が個別で関わりをもつ。	○	見守りを重視する中で、いつもは話せないことなどを入浴時に職員に話せる雰囲気づくりをしてもらっている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している		○	居室にテレビのある方は夜などテレビを見てすごされている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る事を無理せずして頂く支援をしている。	○	作品作りや散歩をしたり、洗濯・掃除など積極的に行っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大金は職員で管理させていただいているが、お小遣い程度は自身でもっている方もおり、必要に応じ小遣いから買物をする様支援している	○	財布を何処にしまい忘れてしまうこともあり、職員と一緒に探しながら財布にいくら入っているか確認する支援をしている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩はもとより、買物に定期的に出掛けている。	○	近所のスーパーへ買物に行く。また、頂き物やおすそわけに他部署に行く際は一緒に行って頂く。また、併設に児童養護施設があるため、子供達と一緒に散歩に行く機会も多くある。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出レクリエーションを組み入れたりしている。	○	児童と一緒にでかける機会も多く、外食や公園に行っている買物についても郊外スーパーに出かける機会ももうけている。家族が定期的に家に連れて行ってくれたり、外食に誘ってくれたりしている。

事業所名：グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人や親戚・兄弟から手紙が来るかたは返事を出すよう支援している。家族に電話をかけたいと希望があった時はいただいている。	○	年賀状・暑中見舞いなどは利用者から出す支援をしている。また、それをきっかけに兄弟から度々手紙が届くようになった方もいる。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	出来るだけ会いに来て頂けるようお願いをしている。	○	家族や知人等の訪問時は、居室にてゆっくり過ごしていただくようにしている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修会をおこなった。また、日々の中で何が身体拘束につながるかを話し合いケアに取り組んでいる。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中いつでも出入りできる状態にあり、鍵かけはしていない。居室には鍵の設置はない。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	フロアの見守りをしながら出来るだけ利用者と一緒に行動する場面を多くし自然に一緒にいる空間を作るよう努力している。	○	帰宅願望などで外へ出て行ってしまふこともあり、職員が付き添うようにしながら、連絡体制を整えている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管には注意している。利用者により居室内にはさみなどある方もあり、把握するようにしている。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクのあることを職員一人一人が理解できるよう取り組んでいる。	○	利用者の状況的に知らない間に一人で外へ出て行ってしまふ可能性が多いため、他部署との連携・協力連絡体制を指導しており対策としている。

事業所名：グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員会議等において繰り返し話し合い確認すると共に、研修を取り入れている。	○	管理者への連絡・報告や緊急時対応を日頃から随時確認しあっている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。地域の避難訓練に参加するほか地域の方々にも施設を知っていただくよう努力していく。	○	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時におこりうるリスクについて説明させていただいている。	○	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調管理には十分配慮すると共に、異変に気付いた際は勤務者全員が共有し、対応し、管理者に報告する。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケースファイルに服薬リストをファイルしてあり必要に応じて確認できるようにしている。服薬に関しては、利用者に渡す際、再度確認し服用してもらう	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	高齢者は便秘になりがちであることを理解し、水分補給に気をつけたりしている。	○	排便チェックシートをつけ排泄パターンを知り対応している。している。排泄が自立している方については、尊厳に配慮しながらトイレ後確認や本人に聞くなど
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声かけし口腔ケアを行っている。	○	自立している方は特に注意し声かけしている。義歯の方は夜はずしてもらい、洗浄剤につけている。

事業所名：グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の極端に少なくなった方や嚥下状態により食事形態をかえる様支援している。	○	生活パターンシートを活用し状況把握に心掛けている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	研修を通し、職員間の意識向上に努めている。	○	感染症マニュアルを活用している。洗面所に手洗い手順を貼り実践している。利用者においても手洗い・うがいを勧めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の管理や残り物の管理・調理器具の管理等に注意をする様努めている。	○	毎日、まな板・ふきんの消毒を行なっている。調理に入る際はエプロンを替える。手洗いの徹底。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	現状でできる範囲の工夫をする様努めている。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は出来るだけ清潔に心掛け、季節感のあるものととりれる様つとめていく。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物や広さの面で十分な対応が出来ていない部分もあるが、ひとりの時間の確保には居室を利用する等工夫をしている。	○	

事業所名：グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時の説明の折り、馴染みのある物を持って来てほしい旨伝えている。また、実際の居室を見ていただき理解していただいている。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気をまめに行なっている。	○	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段があるため、日常の上り下りがリハビリにつながっている。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その方の状況に応じた支援に努めている。	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節により花や野菜を育てている。	○	建物のまわりを利用しめだか農園とし、夏野菜を育てている。また、季節の花を植えたり、ベランダで干し柿作りをしている。収穫には子供達と一緒にする機会ももうけている。

事業所名：グループホーム めだかの学校 悠ゆう

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

併設施設に児童養護施設があり、生活の中で普通に子供と触れ合い、いつでも、お年寄りと子供がいる生活があります。また、一緒に出掛ける機会も多くあります。近くにはグループホームめだかの学校シニアもあり、利用者同士や職員交流や一緒の外出にも力を入れているため、相互交流が盛んなことが特徴です。昨年12月には、特別養護老人ホーム志麻の郷・湯村も開所し交流の場も増えてきました。民家を改装した2階建ての建物となっており、毎日、階段の上り下りが日々のリハビリに繋がっています。